

# 我が調べ 強くしずかに響け

構成——福嶋頼秀  
演出——山崎千鶴子  
舞台監督——中島隆

2023年6月15日[木]  
豊洲シビックセンター5Fホール  
19:00開演 [18:30開場]



# 強くしずかに響け 我が調べ

きこん  
**鬼魂**  
(2014年)



相澤 洋正

【尺八】原郷隆 【津軽三味線】二代目 三山貢正  
【二十絃】三宅礼子

昔話や節分など、小さい頃からなんとなく身近な「鬼」「おに」は「おぬ」（隠）が転じたもので、本来は姿の見えないものを意味していた。他界から飛来して憑依するタマ（靈魂またはカミ）の一種で、オニは外れた存在。人間の世界と他界（冥界）、そのどちらにも属さない境界にいる存在。例えば早く死んだ者、異常死者などが鬼（悪霊）となって境界をさまよう。異界の存在というのがポイントで、自分とは違うものに対する不安や恐怖は、鬼という存在を作り、時には都合よく解釈されて「退治される対象」となったりした。こんな風に「鬼」に対して調べてみたが「ただ恐怖の存在」としてだけでなく、昔話で見てきた「強さと弱さ」「怖さと優しさ」の両面を持つ、どこまでも人間に近い愛着のある存在なんだと思いながら、それでもやはり暗闇にいる鬼をイメージしながら作曲しました。

己 - ki - 1. 起  
(2019年)

Photo by Koshu ENDO



高橋 久美子

【笛・能管】芝有維 【龍笛】あかる潤  
【笙】東田はる奈 【箏】三浦元則  
【尺八I】田野村聡 【尺八II】阪口夕山  
【三味線】杵家七三 【琵琶】久保田晶子  
【二十絃I】熊沢栄利子 【二十絃II】伊藤麻衣子  
【十七絃】久東寿子  
【打楽器I】多田恵子 【打楽器II】盧慶順  
【指揮】苦米地英一

「己 - ki -」は2019年に日本音楽集団創立55周年記念公演、第228回定期演奏会において委嘱初演されました。この曲は当時の団内作曲家との連作であり、各楽章を作曲家が担当しました。そして全体のタイトルは「己 - ki -」ですが楽章ごとの小タイトルは、それぞれの曲に即した「ki」の漢字があてられました。1楽章は私の作品で「起」、2楽章は「輝」（相澤洋正）、3楽章「奇」（福嶋頼秀）、そして4楽章「希」（秋岸寛久）です。確か、この記念公演の作曲家だけの初打ち合わせを渋谷の居酒屋でしたときに「己 - ki -」と決まってから、それぞれの小タイトルは秒？で各自が手を上げ発言し決まったと記憶しています。さて、本日演奏される1楽章の「起」は、まさにこれから何かが始まる予感を意識して創作しました。冒頭は管楽器群による息の長いフレーズから始まりますが、その中で楽器ごとに異なる動機が生まれていきます。やがてそれらは共鳴し合い大きなうねりとなりまします。が、突然遮断され、その後に短いソロが付け加えられます。そして再び大きなうねりが押し寄せますがその波は次第に落ち着き静かに消えていきます。しかし消えたのではなく、前に進むために形を変えたのです。実際はこのあと4楽章まで各作曲家の己（おのれ）、個性溢れる「- ki -」は続きます。「創立55周年記念CD BOX」に全楽章収録されていますので、よろしければ全体を通してもお聴き頂ければ幸いです。

ちくとうのふ  
**竹桐之賦**  
(2003年)



川崎 絵都夫

【尺八I】田野村聡 【尺八II】川俣夜山 【尺八III】饗庭凱山  
【三味線I】山崎千鶴子 【三味線II】穂積大志  
【三味線III】簗田弘大  
【箏I】三宅礼子 【箏II】喜羽美帆 【箏III】森真理子  
【十七絃】久東寿子  
【指揮】苦米地英一

中央大学竹桐会の委嘱により2003年に作曲、初演。全3楽章で、流麗な第1楽章・切々と歌う第2楽章・勇壮な第3楽章からなります。大学や一般の邦楽合奏団で演奏できる斬新な曲を目指して作曲しましたが、そのような区分けを意識せずとも、演奏しても鑑賞しても楽しめる曲になったように思っています。特に第3楽章の「ドリア旋法」による運動性の追求は、それまでの邦楽合奏の作品には無かったような響きと熱さを表現しています。本日は、各パート1人ずつという日本音楽集団ならではの編成でお楽しみ下さい。

四

はなおと

## 華韻

(2016年)



篠田 大介

【笛】新保有生 【尺八】 田野村聡 【三味線】 簗田弘大  
【琵琶】 藤高りえ子 【二十絃】 桜井智永 【十七絃】 久本桂子  
【打楽器】 富田慎平

この作品を委嘱された時、与えられたテーマは「ジャズ」「リズム」といったキーワードでした。そこで私がイメージしたのは、軽快なスイングのリズムに乗っていく、アップテンポなジャズ。しかしジャズといっても、ジャズをそのまま邦楽器に当てはめるといってではなく、邦楽ならではのジャズ（的な音楽）。ジャズのコード感、メロディ、といった要素を邦楽にそのまま移しかえるのではなく、あくまで邦楽器の特性、得意な所が活きるような楽曲を目指して作曲しました。結果的には、リズムカルで華やかな音楽になりましたので、造語ですが「華韻」と名付けました。

五

## トポロジカルスペース第三番

(委嘱初演)



秋岸 寛久

【尺八】 元永拓 【三味線】 穂積大志  
【二十絃】 熊沢栄利子 【十七絃】 丸岡映美  
【打楽器】 多田恵子

かつて日本人は大陸から流入する音楽を消化吸收し、新しい音楽を生み出すという経験を何度か繰り返してきたそうです。しかし、明治維新時に大量に入ってきた西洋音楽にはその手法はあまり成功せず、影響は受けたものの同化することなく並行して存在することになってしまったようです。「そもそも根本から違うんだよね」とおっしゃる方がいます。「根本」とはなんでしょう。音階構造、拍節感、和音感、確かに共通点は少ないように思えます。でも表現芸術であることに違いはないわけですから、柔軟に考えればさほどその違いを意識する必要はないのかなと思います。つまりそれが「トポロジカル」のイメージにつながっているわけですね。私なりに西洋音楽を吸収し、日本の楽器で表現したつもりです。

六

三味線トリオコンチェルト  
9つの色は友と未来をかける!

(2018年)



福嶋 頼秀

【長唄三味線 solo】 杵家七三  
【津軽三味線 solo】 二代目 三山貢正  
【義太夫三味線 solo】 山崎千鶴子  
【笛】 新保有生 あかる潤  
【尺八I】 阪口夕山 川俣夜山 【尺八II】 元永拓 饗庭凱山  
【二十絃I】 桜井智永 伊藤麻衣子  
【二十絃II】 久本桂子 喜羽美帆  
【十七絃】 丸岡映美 森真理子  
【打楽器I】 富田慎平 【打楽器II】 山内利一  
【指揮】 苔米地英一

艶の長唄三味線、華の津軽三味線、泣きの義太夫三味線。三味線は種類が違えば、まるで別の楽器のように音色や世界観が異なる。さらに一つの楽器でも、糸の張力の違いから3つの絃それぞれにカラーがある。この曲の聴き所の一つはもちろん、ソリストたちが奏でる3×3=9つの音色の組み合わせの妙である。またソロを包み込む邦楽合奏の響きにも、ぜひとも耳を傾けて頂きたい。笛/尺八/箏/十七絃/打楽器、の楽器群からなる合奏は...楽章ごとに楽器の組み合わせが異なり、色彩が大きく変化する。<第1楽章>さまざまなキャラクターの音楽が次々登場。他楽章にも登場する重要なモチーフを多く含む(打楽器は休み)。<第2楽章>長唄三味線のソロが先導する軽妙洒脱な音楽(管楽器は休み)。<第3楽章>義太夫三味線を中心に展開するエレジー。(箏群は休み)。<第4楽章>全ての楽器がリズムックに活躍する生き生きとした楽章。津軽三味線のアドリブにも注目を。実はこの曲を作曲中の2017年末に母が他界、特に第3楽章にはレクイエム的な想いも込められている。今夜の演奏会の曲目を検討していた昨秋、弊団の前代表・田村拓男氏が旅立たれ、団内外で大変お世話になった氏への追悼の気持ちを重ねて選曲させて頂いた。そして...今宵、9つの色は仲間たちと共に未来をかけてくれるであろう!

<b>笛</b> あかる 潤 遠藤 悠紀 ※ 芝 有維 新保 有生 孫 瀟夢 ※ 竹井 誠  <b>笙</b> 三浦 はな 東田 はる奈  <b>箏</b> 西原 祐二 三浦 元則	<b>尺八</b> 饗庭 凱山 大賀 悠司 ※ 川俣 夜山 阪口 夕山 田野村 聡 原郷 隆 藤崎 重康 湖上ラファエル 広志 元永 拓 米澤 浩 渡辺 淳	<b>三味線</b> 杵家 七三 長井 麻江 二代目 三山 貢正 穂積 大志 簗田 弘大 簗田 司郎 守 啓伊子 山崎 千鶴子  <b>琵琶</b> 久保田 晶子 田原 順子 藤高 りえ子	<b>箏</b> 石井 香奈 伊藤 麻衣子 岡山 亮子 ※ 久東 寿子 熊沢 栄利子 桜井 智永 佐藤 里美 島崎 春美 ※ 城ヶ崎 美保 久本 桂子 丸岡 映美 三宅 礼子 森 真理子 山田 明美 喜羽 美帆 渡辺 正子	<b>打楽器</b> 白杵 美智代 尾崎 太一 島村 聖香 ※ 多田 恵子 富田 慎平 山内 利一 盧 慶順  <b>指揮</b> 稲田 康 苦米地 英一  <b>作曲</b> 相澤 洋正 秋岸 寛久 川崎 絵都夫 篠田 大介 ※ 高橋 久美子 福嶋 頼秀	<b>アート マネージメント</b> 大西 愛子 ※  <b>楽器・舞台</b> 中島 隆  <b>代表</b> 尾崎 太一  <b>副代表</b> 米澤 浩  <b>事務局</b> 中山 美穂子  <b>永久名誉団員</b> 長澤 勝俊 田村 拓男
--	---	---	---	---	--

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したことを機に、賛助会員を募集しています。多くの方々から支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

会費 (年会費) | 個人会員 10,000円(一口以上) |   
 法人会員 30,000円(一口以上)

◆ 年3回の定期演奏会への招待状を毎回ご送付

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。また、ホームページでも、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

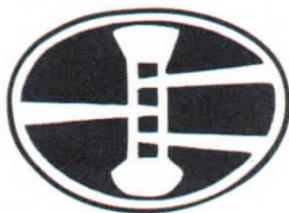
個人賛助会員 (2023年度)

天野 麻奈実	内山 小次郎	奈良 英子	元永 美代子
伊藤 哲彌	織田澤 康寿	西川 浩平	森 繁美
伊藤 美好	柿崎 やよい	堀 保之	山本 福八
伊藤 憲夫	佐藤 玲子	三宅 一徳	
池内 伸子	友杉 毅	元永 明希	(その他3名、合計21名)

法人賛助会員 (2023年度)

日凸運送株式会社

TOKYO KINKODO



株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15

TEL (03) 3792-8481

URL: <http://kinko-do.com>

FAX(03) 3792-8437

E-mail: [tokyo@kinko-do.com](mailto:tokyo@kinko-do.com)